

# 余命1カ月 寝たきりで人生終われぬ

# 83歳 また歩けた

人の歩きの仕組みを研究してきた83歳の医  
 大名誉教授の男性が今春、がんで余命1カ月  
 と診断され、寝たきりになったがリハビリに  
 取り組み、再び一人で歩けるまでに回復した。  
 希望を失いかけたが、研究で得た「筋力とバラ  
 ンス機能を整えたら歩ける」との信念から努  
 力を重ねた。男性は体験を記した著書も出版。  
 「寝たきりになっても再び歩けた。同じ境遇  
 の人を勇気づけたい」と語る。【野口由紀

男性は、関西医科大 月中旬に肺炎で2週間  
 名誉教授で医学博士の 入院。転倒防止のため  
 岡本勉さん(大阪府茨 歩行を止められた。抗  
 木市。子どもの発達や がん剤の副作用から関  
 高齢者の健康維持に役 節の働きが鈍った。や  
 立つ歩き方を研究して げて寝たきりになり気  
 きた。近年は自宅に開 持ちも落ち込んだ。が  
 いた「歩行開発研究所」 んはリンパ節に転移  
 を拠点に活動してい して、医師から余命1カ  
 る。 月と宣告された。高齢

毎朝約1時間歩き、  
 80歳直前には大阪マラ  
 ソンに出場。だが、胃  
 がんと診断され、治療  
 を受けてきた。今年4  
 月と宣告された。高齢  
 になっても歩いて元氣  
 で過ごす方法を研究し  
 てきた岡本さん。宣告  
 に「歩けないまま人生  
 を終われない」と、心

## 医学博士 自らの研究実証

にスイッチが入った。  
 4月下旬に退院。作  
 業療法士と研究所の主  
 任研究員でもある長女  
 香代子さん(52)ら家族  
 とリハビリに取り組ん  
 だ。ベッドの上に乗る  
 ようになった後は歩行  
 器を支えに立つ訓練を  
 続けた。バランスを崩  
 さないよう両足を広げ  
 て立つことなど、歩行  
 の研究が役に立ったと  
 いう。8月にはつえを  
 支えに自室を行き来で  
 きるようになった。8  
 月下旬、妻悦子さん  
 (82)の誕生日に万博記  
 念公園(大阪府吹田市)  
 に家族で外出。香代子  
 さんは「一緒に外出で  
 きると思わなかった。  
 涙が出るほどうれしか  
 った」と振り返る。



8月、思い出の万博記念公園で歩くことが  
 でき、笑顔の岡本勉さん(左から2人目)  
 と家族一岡本香代子さん提供

岡本さんは数カ月ご  
 今、毎日2000歩を  
 とに目標を更新し、希  
 望をつないでいる。体  
 験の出版を目標とし、  
 10月の誕生日には「在  
 宅医療・介護 寝たき  
 りからのリハビリウオ  
 ーク(同研究所)を刊  
 と願う。著書の問い合  
 わせは研究所(072  
 ・631・1788)。  
 の出版だ。岡本さんは



寝たきりから回復した経  
 験を記した岡本勉さんの  
 著書—野口由紀撮影